

第1回、第2回会議での主な議論

○教育・研究の多様化・高度化

- ・情報技術の急速な変化を見据えたフレキシブルな施設整備をすべき。
- ・SINETや学内ネットワーク、通信業者との関係やサイバーセキュリティを考慮した施設整備をすべき。
- ・研究者同士でオープンに対話、交流できる場を整備すべき。
- ・多様な学修スタイルに適合できるスペースを整備すべき。
- ・落ち着いて基礎研究に取り組めるような環境や施設を整備すべき。

○学生・研究者の多様化

- ・ダイバーシティの問題に対応（例：トイレ、学生寮）した施設整備をすべき。
- ・世界中から学生・研究者を呼び込む大きな要因・武器の一つとして国際水準への施設の充実を図るべき。
- ・大学キャンパスが日本の国際化のモデルとなれるよう、日本人学生と留学生とがごく自然に交流できる施設や環境を整えるべき。

○社会との連携・協力の推進

- ・大学キャンパスを、市民・企業と大学が共生し一緒に育てていく都市として捉えるべき。
- ・美しいキャンパスに整備・保全すべき。その際、道路や植栽の整備コストを、自治体や企業の協力を得ながら、まちづくりも含めて考えるべき。
- ・大学のキャンパスを社会における実験の場として、企業も呼び込み活用すべき。
- ・大学は地域や都市と連携するうえでのハブであり、グローバル化の拠点となるべき。
- ・地域と大学とが施設マネジメントでも連携し、双方の余剰・不足施設を相互利用・相互補完し、地域活性化にも貢献すべき。

○その他

- ・現在の国の予算状況では、予算がないと手が打てないという姿勢で施設の改善を進めていく考え方は、根本的に変えるべき。